

【令和7年度 第1回立川市青少年問題協議会 会議概要】

■ 日 時 令和7年7月15日（火）15:00～

■ 場 所 立川市役所302会議室

■ 出席者

酒井市長（会長）、福島委員、永元委員、佐藤委員、米川委員、市川委員、萩生田委員、関口委員、坂下委員、中村委員、玉城委員、川越委員、上野委員、伊藤委員、中村委員、益子委員、篠崎委員、秦委員、小野委員、尾崎委員、芳賀委員、中沢委員、古木委員、辰田委員、吉原委員、中坪委員、田中委員、水越委員、近藤副市長、飯田教育長

（委員数39名の内）合計29名

（事務局）子ども育成課長、青少年係主事

■傍聴者 なし

（※会議は公開）

（事務局 配布資料）

1. 立川市青少年問題協議会条例
2. 令和7年度立川市青少年問題協議会委員名簿
3. 令和7年度立川市青少年健全育成事業予定表
4. 第45回立川市中学生の主張大会
5. 「2026年二十歳を祝うつどい」について
(番号無し) 令和7年度立川市青少年健全育成市民行動方針

（関係機関からの配布資料）

1. 第28回薬物乱用ダメ・ゼッタイフェア実施報告（薬物乱用防止推進立川市協議会）
2. 柏町青少健だより
3. チャイルドラインたちかわボランティア募集チラシ
4. 富士見町青少健だより

事務局（子ども家庭部子ども育成課長 小川）

- ・本協議会の委員数39名のうち29名が出席のため、本協議会条例第7条の1の規定により協議会が成立。

新委員辞令交付

- ・酒井市長より新委員への辞令交付。
- ・今回、任期途中ではあるが各団体より委員変更の申出があったため、委員を任命し、辞令を交付した（立川市青少年問題協議会条例第2条第3号第2号の学識経験者選出より）。

- | | |
|-------------------------------|----------|
| ・青少年健全育成羽衣町地区委員会委員長 | 川井 浩（欠席） |
| ・青少年健全育成西砂川地区委員会委員長 | 上野 耕介 |
| ・青少年補導連絡会会长 | 中村 喜美子 |
| ・北多摩西地区保護司会立川分区分区長 | 益子 悅雄 |
| ・市立小学校P T A連合会（立川市立幸小学校PTA会長） | 秦 章菜 |

1. 青少年問題協議会会長あいさつ

2. 議題

(1) 協議事項

ア 立川市青少年問題協議会副会長の選出について

- 立川市青少年問題協議会条例第4条第2項により、地区委員長連絡会会长 玉城真由美 若葉町地区委員長の副会長就任が承認された。

(2) 報告事項（事務局より各資料について説明）

ア 令和7年度立川市青少年健全育成事業予定について

イ 「令和7年度立川市青少年健全育成市民行動方針」について

事務局

- 令和6年度に、「立川市青少年健全育成市民行動方針」策定のための専門委員会を設置し、インターネットの使用時間への啓発や SNSへの注意喚起を強めた文言を入れるなどの改訂を実施した。令和5年に施行されたこども基本法の基本理念や子どもの権利条約の基本的な4原則、子どもに接する方々に必要な情報を盛り込み、本年2月に開催した青少年問題協議会で改訂案承認済み。印刷デザインは、夢育て・たちかわ子ども21プラン推進会議で、本行動方針（案）のデザインや構成についてアンケートを行い、子ども委員からいただいた意見（イラストのテイストの更新や統一感、フォントを見やすく、など）を反映した。
- 6月14日（土）にたましんRISURUホール・小ホールにて開催した青少年健全育成市民運動推進大会において、行動方針に基づいた市民ぐるみの取り組みをお願いするとともに、同日開催の講演会では、「子どもの権利条約・こども基本法を踏まえた子どもとのかかわり方」と題して、白梅学園大学/白梅学園短期大学教授・小松歩先生にご講演をいただいた。

ウ 第45回立川市中学生の主張大会について

事務局

「第45回立川市中学生の主張大会」は、11月3日（月・祝）に、たましんRISURUホール・大ホールにおいて開催予定。実行委員会を5月27日に開催し、大会の実施内容について検討、確認をし、作文、イラストの募集にあたっては、各中学校に校長会を通して協力依頼済み。

エ 2025年二十歳を祝うつどいについて

事務局

- 令和8年1月12日（月・祝）にたましんRISURUホールで開催予定。今回も二部開催とし、実行委員会にて内容の検討を行っているところ。

3. 情報交換

立川児童相談所

- 令和6年度、立川市の相談受付件数は31件。
- 重大事件の低年齢化が進み、14歳未満の児童が犯した行為の中には事件通告を受けたケースが見られる。
- 児童相談所が受ける相談のケースには、非行の背景に虐待があること、または大人に対する不信感を抱いている子どもが多くおり、周囲の大人が子どもの行動や考え方を理解できず、子どもと大人との関係がこじれていることなどがある。
- 児童相談所は子どもだけでなく、保護者の援助も必要だと考えており、関係機関の連携が不可欠だと思っている。

東京保護観察所立川支部

- 本日現在、保護観察所で扱っている事件について、少年院を仮退院して保護観察をうけている少年が立川市内3名、自宅で保護観察を受けている少年が13名いる。
- そのうち女子対象者が2名で非行名は交通事犯、薬物事犯、詐欺、性犯罪、傷害がある。
- 全国的には少年事件数は減少傾向にある。立川の場合は成人の事件が少なく、少年事件の方が多い状況。
- 保護観察所では少年たちについて学校や地域と連携し、更生に努めていきたいと考えている。

多摩立川保健所

- 現在、コロナ、インフルエンザの感染症は落ち着いている状況で、百日ぜきの発生が依然として多い。麻疹も都内では多く、インバウンドなどの影響で感染の確率が高くなっている状況。これらは予防接種が最大の予防策のため活用いただきたい。
- 保健所では精神保健も担当しており、その一環として自殺対策に取り組んでいる。子どもの自殺件数が全国的に増えている状況で、不登校の問題から薬物多量摂取やリストカットなど、最悪の場合は自殺につながっている。
- 保健所でも積極的に心の健康対策を進めたいと考えている。

立川市立小学校長会

- 放課後の過ごし方についていくつか問題がある状況。
- 保護者が不在の同級生の家に遊びに行き、いたずらをしてしまう事例があった。
- 公園で遊ぶ際に他校の子どもと関わり、問題が起こるなどの事例もある。
- LINEでの仲間外れによるトラブルや、万引きなどの事例もある。
- 登下校中に拾った石を投げ、車や自転車にあたってしまうトラブルがあり、各学校では放課後の過ごし方について指導をしている。
- 不登校傾向、集団への不適合も増えてきており、低年齢化している状況。

- ・これから夏休みに入るため、子どもの過ごし方について地域の方に見守っていただきたい。

立川市立中学校長会

- ・SNS に関するトラブルで、SNS で悪口を言った、言わないなどのトラブルが発生している。
- ・薬を大量に飲んでしまうオーバードーズの傾向がある子がみられたため各学校で対応をしている。
- ・各学校の終業式では自殺予防について指導していきたい。自殺予防のためには周りの大人に相談することを勧めているため、ぜひ子どもたちを見守っていただきたい。
- ・水難事故についても指導していく。

薬物乱用防止推進立川市協議会

- ・昨年の 11 月に立川市薬物乱用ダメ・ゼッタイフェアを実施。
- ・クリアファイルには大きく、「誘惑に負けるな」という標語を掲載しており、同封のポケットティッシュは立川のポスターの部で 1 位になった生徒の作品を掲載している。
- ・主催は立川市と教育委員会と薬物乱用防止推進立川市協議会のため、立川の応募数が多い傾向で学校の先生方のご協力を得られているというのが立川の特徴。

委員 A

- ・チャイルドラインたちかわについて立川市の教育委員会に協力いただき、自殺の多い長期休み前に全小学校、中学校の全校生徒に配布している。

【質問】

委員 B

- ・ネットニュースで立川四中では暑さ対策のファンが着いているベストを貸与していると見たが、これから他の中学校に広げる予定はあるのか。

【回答】

会長

- ・本件は立川四中の独自の取り組みであり、立川市や校長会、教育委員会で周知され取り組んだ事例ではない。
- ・今後、効果を検証したうえで他の学校にも取り入れるのか検討していきたい。
- ・今年から熱中症特別警戒アラートを導入し、前日の 14 時に特別警戒アラートが発令された場合は翌日学校を休校する場合あり。

閉会の言葉 終了